

# 名古屋丸の内ロータリークラブ Nagoya Marunouchi Rotary Club Weekly Report

例会会場：名古屋クレストンホテル  
(TEL : 052-264-8000)

例会曜日：木曜日 12時30分  
クラブ会報広報委員長：黒田 覇太郎  
HP : <http://nagoya-marunouchi-rc.org/>

2023-24年度 R.I. テーマ  
会長：ゴードン R. マッキナリー

Rotary  
Club of Nagoya Marunouchi



世界に希望を生み出そう

承認  
会長  
幹事  
事務局

1995.03.28  
松尾 雄二郎  
今村 昌根  
名古屋クレストンホテル  
1007号  
名古屋市中区栄 3-29-1

TEL 052-263-1324  
FAX 052-263-0730  
E-mail [seinan1@fancy.ocn.ne.jp](mailto:seinan1@fancy.ocn.ne.jp)

松尾 雄二郎 会長 年度目標 : 親睦、親睦、そして親睦、楽しんで 30周年につなげましょう

第1238回 例会 No. 14 令和5年11月16日(木)

Make a Wish 支援 チャリティ夜間例会 18:30~

- ローターソング 「我らの生業」「四つのテスト」
- 出席報告 会員43名中15名出席
- 出席率 39.47% 出席計算人数38名
- スピーカー Make a Wish of Japan 名古屋支部 原 順子 様

## 会長挨拶

松尾 雄二郎

みなさんこんばんは。  
先週は週末の2日間に  
地区大会があり、  
今村幹事はじめ参加  
いただいた皆様、お疲れ  
様でした。1日目の夜  
は晩餐会があり、色々  
気疲れしましたが、  
クラブ内の夜間例会は  
私には楽しい限りで  
す。先週も食いしん坊  
の会、盛り上がりまし  
た。本日はメイクアウィッシュの原さんをお迎えしての  
チャリティ例会です。



私が最初にゲストをお願いしてから何年たつのだろうと  
思い返していましたが、渡邊さんの会長年度にプログラ  
ム委員長をしたときですので、16年になります。

「単年度ですから来年はわかりませんよ」と言い続け  
てきましたが、皆さんがなんだかんだやってくださったお  
かげで、まさかの私の会長年度までご縁が続きまして、  
大変うれしく思います。

PETSの時に、昔100名近くのメンバーで色々奉仕プロ  
グラムが出来たが、今は50人切ってそれどころではない、  
という話がありました。そもそも先送りのノルマもない  
はずですので、その時にあった活動を考えていけば良い  
のです。来年の加藤年度ではまたその時の方針で決めて  
いただければと思います。それでも今日一日だけでも、  
想いを寄せて、後で開催されるチャリティオークション  
では大いに盛り上げて、たくさんの難病の子どもたちの  
夢を応援してあげたいと思います。

30日の例会は田中さんのご紹介でエベレストに登頂され  
た方のお話が聞けますし、入会式も2名予定していま  
す。お誘い合わせの上、ぜひ出席をお願いします。

食いしん坊の会は、来月がすき焼き、3月はすっぽん料理  
が入ってまして、1・2月は、お寿司とおぼんざいがノ  
ミネートされています。  
簡単ですが、本日も一日よろしくお願ひいたします

## ニコBOX

●本日は Make a Wish 支援例会です。チャリティオークシ  
ョンにご協力お願いします。メイクアウィッシュオブジャ  
パン名古屋支部より、原 順子様にお越しいただき活動紹介  
をしていただきます。宜しくお願ひ致します。

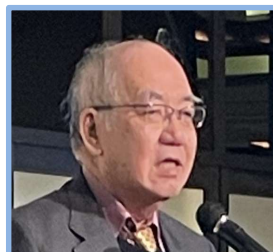
藤田、松尾、西川、森田、石井、山崎彰子、岩田、  
長谷川、田中、磯部、立石、後藤(敬称略)

●秋の健康感謝ニコニコ Day  
堀江俊通、森田、小野、立石(敬称略)

本日合計 35,000 円

## 乾杯

磯部 徹



乾杯の音頭を取らせていただき  
ます。先ほどの会長ご挨拶でメ  
イク・ア・ウオッシュ支援の始  
まりが16年前っていう話に合  
わせまして、私が米山奨学生の  
カウンセラーを最初に引き受け  
たとき、奨学期間中に生まれた  
子供が13歳になったので、今

度のクリスマス家族会のときには、その家族とご両親も一  
緒にお邪魔します。13歳になったので「十三参り」ってい  
うのをお寺でやって、というような関係が13年間ずっと続  
いております。

人数少ないですけど今日は楽しくやりましょう、乾杯！



## 出席表彰

出席委員長 恵利有司

今年度節目の入会年数を迎える方のうち、入会日が上半期に該当する方に、松尾会長より記念品を贈呈いたしました。

25ヶ年 後藤 徹



10ヶ年 田中如以



例会ご欠席者 10ヶ年 武山卓史 真砂敦夫

## 外部卓話

Make a Wish of Japan 名古屋支部 原 順子



貴重なお時間、ありがとうございます。名古屋丸の内ロータリークラブの皆様には、いつもご支援いただき感謝しております。簡単にメイク・ア・ウィッシュ活動のことをお話させていただくと、メイク・ア・ウィッシュって

というのは皆さんもご存知のように願い事をするとか、夢を叶えるっていう意味の英語で、アメリカで始まった団体です。

テレビでご覧になったかもしれませんが、1980年、白血病と闘うクリスくんという7歳の少年の夢が「おまわりさんになりたい」、その夢を地元アリゾナ州の警察官の方たちが叶えてくださいました。それからクリスくんのような少年

がいっぱいいるじゃないか、病気のせいで時間がない子たちとか自分の力で夢を叶えられない、そんなお子さんたちがいるんじゃないかということで、アメリカでボランティア団体になり、たくさん広がって、現在約40カ国で活動がされております。

その一つが、メイク・ア・ウィッシュオブジャパン。日本で1992年から活動が開始されています。本当に1人1人夢は違うんですよ。誰々に会いたい、何々になりたい、何々がしたい、何々が欲しいし、その1人1人の夢をかなえさせていただいています。去年は30周年を迎え、日本名古屋支部は25周年になります。皆さんご存知の通り、コロナ禍になってからはなかなかその夢の実現が難しいという側面がございます。

去年は全国で154名のお子さんの夢を叶えるお手伝いをさせていただきました。その前の年は118名だったので増えました。名古屋支部はどうかというと、コロナ禍になってから、2020年は24名、2021年は25名、2022年は26名ということで1人ずつ増えてはいます。今年は現在で25名をお手伝いさせていただいており、年内に今から5名の夢を叶える予定があるので30名を超えるのではないかなと思います。

なので、世の中ではアフターコロナと言われていたり、いやまだだまって言われているような情勢ですが、少しずつ夢の実現の範囲も広がっているかなというふうに感じております。そこで、コロナ禍になってから変わったこと、それから変わらなかったことなど常々私達も考えていることをお話させていただきます。変わったことというのは、やはりウィッシュチャイルドの夢が少し狭まってしまった事です。ウィッシュチャイルド自身の生活も変わってきました。

ウィッシュチャイルドっていうのは、ほとんど大学病院ですとか、大きい病院の小児病棟に入院しています。ご承知のようにコロナ禍になってからお見舞いができません。それで私達も訪問することができなくて、でもやはり夢の実現のときだけはアテンド同行させていただいたりとかしているのですけれども、以前は夢を聞く段階は、私達トレーニングを受けたボランティアさんが訪問して聞きに行っていたのですが、コロナ禍になってからはオンラインミーティングでやっております。

なのでなかなか夢のヒアリングが上手く聞き取れなかったっていうこともあるんですけども、ただ、オンラインのミーティングがどこの病院でもできるようになったので、いろんな時間帯にお話できるようになったっていうのもいいことかなと思います。ウィッシュチャイルド、ウィッシュファミリーご家族は大変です。というのはやはり今、だんだんお見舞いの規制っていうのは緩んでいるかなと思うんですけども、小児病棟っていうのは一番厳しいと言われております。ウィッシュチャイルド、私達が夢の実現のお手伝いをさせていただいてるお子さんっていうのは、やはり難病ですので、大学病院の小児病棟とか大きい病院の小児病棟、慢性の病気じゃないお子さんが入院している病棟なので、なかなかやはり15歳未満の兄弟姉妹はお見舞いに行けないし、何よりもコロナ禍になってからっていうのは、付き添いが1人って決められてるんですね。コロナ禍の前だと、基本的にはお母さんが付き添いをして、土日は

お父さん、おじいちゃん、おばあちゃんが交代、おじさんおばさんが交代して、お母さんが土日は家に帰って、他の兄弟姉妹のお世話をしたり、お話をしたりというようなことが出来たのですが、コロナ禍になってからは色々な人が病棟の出入りをするのは困るからということで、お父さんやおじいちゃん、おばあちゃんに付き添いの交代ができなくなっています。

だからウィッシュチャイルドは、病気になって入院してからお父さんとずっと会っていない。それからおじいちゃんおばあちゃんも会っていない。兄弟姉妹、お母さんと会えない。お母さんと遊べない。そういうご家族がほとんどです。なので私達夢の実現のときに、旅行に行くときだけご家族みんなで会えるとかそういったところで笑顔をいただいています。それが本当にコロナ禍になってから変わったことだなと思います。それから、私達夢の実現のためには資金集めをさせていただいているのですが、コロナ禍になってから、やはり寄付金は減ってしまったなところがあります。

東北大震災のときにガタッと寄付金が減ってしまって、「今年は東北の方に寄付をしたから」ということで、もちろん今必要なところに寄付してくださいというふうにお話させていただいていました。もちろん今もそうです。コロナ禍になってからは、企業の方も、やっぱり資金的に厳しいですからね。日本の中でもコロナ禍になってから、家がなくなった、生活できなくなった、母子家庭の方とか、そういった方を支援する団体の方も資金作りに苦労してらっしゃいます。

私達は、個人や企業の方の寄付金に頼っているので、なかなかちょっとそういったところで苦労しております。イベントをして、今までもコロナ禍のときもオンラインのイベントをさせていただいて、こちらの丸の内ロータリークラブの皆様のご支援をいただきました。そして今年は4年ぶりにチャリティーマラソンをしてチャリティーポーリングもやりましょうということになっています。

テーブルにパンフレットを置かせていただいているのですが、このチャリティーポーリングもやるにあたっては大変でした。これ実は、関西支部と名古屋支部が今年25周年だから、それを記念してポーリングをやろうといったことでしたが、やはり屋内のイベントですし、業種というのが難病のお子さんをお手伝いしているボランティアだったりだから、このイベントをやっていいかどうか、私達実行委員会も散々話し合ったのですが、なかなか本部のお許しが出来ないとかそういったことがありまして、でもいいでしょうやりましょうってことで、いざやってみたら、告知も遅かったというせいもあり、なかなか協賛金も集まらない、人も集まらないといったところでした。締め切りを延ばして、当日までも受け付けるということになりましたので、パンフレットを見て、ポーリングに行ってみようかっていう方はぜひお申し込みいただきたいですし、好きな方がいたらご案内いただければと思います。

イベントをするってということ一つ一つが、コロナ禍の前だったら、企画をあげたときに、何か人が集まりすぎて良くないんじゃないとか、そんな心配とかは全然なかった。ですが今はやはり私達が決定して遂行していくということがすごく困難だなというふうに思っております。イベント

もそうですし、ウィッシュチャイルドの夢の実現も、私たちは何か中間管理職のような立場で、ボランティアさんとかウィッシュファミリーからはこうしてほしいああしてほしいと言われ、でもドクターに駄目って言われたり、本部に駄目って言われたり、そこら辺の擦り合わせをしたりしているということなんですけれども、コロナ禍の前にはなかったような問題がいろいろあって様々です。

変わらなかったことって何だろうって考えると、やはりそれはウィッシュチャイルドの笑顔です。今変わったことということで、コロナ禍の前にはなかったような、いろんな問題のすり合わせっていうので大変なんですけれども、やはり夢を叶える前っていうと、ご両親は「あれもできないんですか？これもできないんですか？」っていうことで、先日も北海道に行ったファミリーに、1日目はホテルでゆっくりしてください。2日目は夢の実現地でお寿司を食べて、3日目にはホテルから空港に行ってそれからすぐ帰ってきてくださいねって、そんなことで何も楽しくないじゃないですかってようなことをすごくさんざん言われましたが、ドクターからの指示で、それだったら行ってもいいよっていうふうに言われていました。

アフターコロナって言われて、世の中の皆さんはいっぱいいろんなところで出歩いて、外国人の方もたくさん来ているけど、やはり闘病生活を送っているお子さんにとっては許されない事とかいっぱいあって、制約の中で申し訳ないんですけれども、やはり従ってください。じゃないと主治医の先生からはゴーサインをいただけませんということで北海道に行っていました。もうどうしよう、こんなことでと心配に思っていました。帰ってこれたら、もう満面の笑顔で、いやあ、こんなコロナ禍の中でよく準備していただきました。ホテルとか親切にしてくださいし、お寿司屋さんが何よりも、もう本当に大歓迎してくださいました。特別なメニューを用意してくださいました。ホテルには、ボランティアさんの手作りのウェルカムボードが届いていたり、綺麗にラッピングされたプレゼントが届いていたり、もう本当に感激いたしました。コロナ禍の中でよくやってくださいましたとご両親に笑顔で言っていて、なんと、今回は北海道に行ったけれども次は私達自分たちの力で沖縄に行きたいと思えます。とそのご両親がおっしゃいました。いや、決して病気が今はいいんだけれどもこれで完全に治ったわけではなく、これからも治療は続くし、子供の病気と向き合いながら、家族でやはり離れ離れになる時間もあったり、つらいことが待ってるってことをわかっているんだけれども、だけど今回、北海道に旅行に行けた。

それが励みになって、何でもやれると思ったので、私達これから頑張っていく、その力をいただきましたというふうに言っていて、感激いたしました。っていうのも、本当に制約が多い中で夢の実現をお手伝いさせていただいてるので、私は常日頃、ここまでしかできないこれしかやってあげられない、そんなふうな気持ちがいっぱいなんです。私もそうだしボランティアさんたちもそうで、この制約の中で、何とかステキなウェルカムボード作ろう、プレゼントは素敵にラッピングしようとか、そんなことを工夫することがやはり、ウィッシュチャイルドの笑顔に繋がるんだなと思います。

それで先ほど言ったご両親の言葉で、北海道に行ったから次に僕は沖縄に行きます。これからの闘病生活もやっていけるという力をもらいました。というお言葉をいただいて、それまで私も何か中間管理職のような規模でこれをやれてこれもやれてたのではないとか不安になっていましたけど、その言葉一つ、そしてウィッシュチャイルドの笑顔で、もう全て吹っ飛んでしまいました。私の方がパワーをいただいているな、ありがとうという気持ちで活動させていただいています。

本当につくづく思うのは、ウィッシュチャイルド、体は弱いんだけど、心は強いなというふうに思います。コロナ禍でいろんなことが大変なことがあるんだけど、ウィッシュチャイルドは病気になった。そのことが本当に比べ物にならないほど大変な困難となって降りかかっています。それでも夢を持って生きている。そしてコロナ禍の制約が多い中で、夢を実現して笑顔を見せてくれて、周りの人を幸せにしてくれる、そんなウィッシュチャイルドはとっても心が強いなと思います。

だから何かいろんなことで愚痴も出ちゃっても、もうそんなこと思ったらウィッシュチャイルドに申し訳ないなというふうに思います。いつも本当にパワーをもらって感謝しております。そして二つ目もう一つ変わらないっていうことは、先ほど寄付金も減ってきてしまってたと言いましたが、それでもその中でもずっと寄付をしてくださってる企業様や個人の方がいらっしゃいます。それとずっとコロナ禍の前から変わらないのは、この名古屋丸の内ロータリークラブの皆様のご支援です。

毎年多大なご支援をいただけてまして、コロナ禍の中でも助けていただきました。もう本当に、名古屋丸の内ロータリークラブの皆様にもパワーをいただいているなということを実感しております。なので今日は本当にもうコロナ禍で大変で、困難な状況ですっていうことをお話したんですけど、二つ皆様にお伝えしたかったのは変わらないウィッシュチャイルドの輝く笑顔。それと、名古屋丸の内ロータリークラブ様の変わらないご支援、その変わらない二つの素敵なことをお話したいと思いました。

感謝の気持ちは言葉では言い尽くせません。本当にありがとうございます。今日も貴重なお時間をありがとうございました。

### チャリティーオークション

司会：松尾雄二郎

今回も皆様からのたくさんの品物のご提供をいただきました。感謝いたします。



### Make a Wish 支援金贈呈

社会奉仕委員長 岩田 宏

皆様の多大なご協力により、下記のように支援金を贈呈することが出来ました。有難うございました。

チャリティーオークション収益金	250,000 円
社会奉仕委員会事業支援金	100,000 円
前年度チャリティーフェス収益金	150,000 円

合計 500,000 円



### ハイライトよねやま vol.284より転載

支援に感謝 ウクライナ学友が来日講演

ウクライナ出身の米山学友、セゾネンコ テチアナさん（2017-19/大阪城南RC）がホームカミング制度で来日し、世話クラブが主催する「ウクライナ支援講演」（10月27日開催、協賛：吹田RC）で、侵攻後の生活や母国の未来について語りました。講演会には、国際ロータリー第2660地区延原健二ガバナーやロータリー会員・家族、米山学友などオンラインを含む300人弱が参加しました。テチアナさんは大阪大学大学院で博士号を取得後、母国ウクライナに帰国。製剤化学者として勤務する日々が一変したのは昨年2月24日の朝でした。

「戦争が始まった。皆、仕事には来なくて良い。自分で安全を確保するように。」上司からの指示でした。その日以降、テチアナさんは仲間とともに、食料や医薬品、おむつなどの物資を届けるなどボランティアに従事。大阪城南RCでは彼女の苦境を案じ、緊急支援金を集めて送ったところ、テチアナさんは自分や家族のためではなく、すべて支援物資の購入や輸送、困窮家族の援助に充てていたことがわかりました。「自分も苦しいはずなのに、われわれのお金を一番有効なことに使いたいという気持ちで使ってくれた。すごい子やなど。だったら、もっと支援の輪を広げてあげたい」と、今回の企画の発案者である西谷雅之会員は語ります。

この日の支援講演に寄せられた義援金はなんと4,027,350円。使途については随時、大阪城南RCのHPで報告されるということです。

### 今後の例会予定

- 11月23日(木) 休会
- 11月30日(木) 外部卓話 エベレスト登頂者 生田洋介様
- 12月7日(木) 年次総会